



エコ・リーグ(全国青年環境連盟)

～ 青年の環境活動活性化と、ボランティアを通じた環境人材育成～



2007年11月

全国青年環境連盟(エコ・リーグ)
インターナショナルサポート部 北橋みどり

学生の環境活動概況

国内300超の環境サークルが活動

1990年台後半から数が増加、活動内容が変化

1994年 約10団体

反対運動・自然保護

エコ・リーグ設立
ノウハウ・アイデア
交換支援

2002年 約200団体
2007年 約300団体

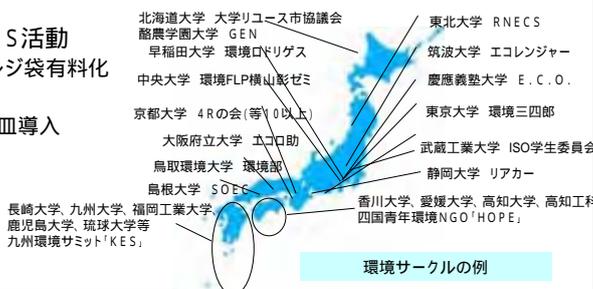
キャンパスエコロジー・
環境×へと変遷

(は、教育、まちづくり、アート等)



多様な活動テーマ

- ・大学構内の環境負荷低減・EMS活動
省エネの呼びかけ、ごみ分別、レジ袋有料化
- ・エコ学園祭・エコ祭り
学園祭でのごみ分別指導、洗い皿導入
- ・環境教育
地域の小学校に出張授業
大学講義の企画・運営
- ・リサイクル市
卒業生の家具を新入生へ 等



環境サークル例

【早稲田大学 学生環境NPO 環境ロドリゲス】



設立年:1997年、大学公認サークル
メンバー:50名程度
ミーティング:学生会館

しかしいつも使えるというわけではない

活動内容:

- ・eco Live Music:「音楽」を切り口に、環境改善
- ・em factory:環境ビジネスコンテストを開き、人材を育成
- ・エコツアー...旅を通して、参加者の行動のきっかけづくり
他環境教育、お祭りでの環境対策等

「環境×」の視点を持ち、興味さえあれば、
自分のやりたいことを始めることができる

資金:年間40万円ぐらいの収入。
(現役メンバーの会費、寄付金、大学の補助等)

特徴:在籍期間に制限があり(1年~3年の9月)、
学生らしい視点を失わない組織。

【共育NGO “To Be”】

設立:2001年 インカレサークル
メンバー:約10大学から10数名
ミーティング:大阪ボランティア協会等で
月に2回程度開催

活動内容:

- ・地域の小学校の総合学習の時間の
環境教育サポート(お調べ学習・ゲーム等)
 - ・学童保育等での環境教育の開催 等
- 資金:過去の助成金の残り、メンバーの自腹

大学卒業後、これまで5名程度教員になった



3

エコ・リーグ概要

設立:1994年

目的:青年と団体のネットワーク・活性化

会員:180名(会費:年3,000円)、
年間イベント参加者:2000人

組織:事務局スタッフ全国各地に約50人
(ほぼ学生ボランティア
07年からプロジェクト付きアルバイト若干名
理事会(主に社会人)

活動内容:

- ネットワークサポート
- キャリアサポート
- マネジメントサポート
- インターナショナルサポート
- その他:メディア・出版等

特徴:唯一・最大の青年の全国青年環境ネットワーク

- ・環境活動支援を目的(中間組織)
- ・青年(30歳以下)のみ運営権
- ・活発な若者のネットワーク
(スタッフ自身も多くは環境サークルのメンバー)
- ・企業からの委託事業・共同事業を実施
例)日本経済新聞社・東京電力

予算規模:2007年度 1700万円
(会費、イベント収益、助成金、事業委託)



環境活動における青年の長所と短所

<長所>

- ・パワーがあり、きっかけがあれば大規模な活動が行なえる
- ・将来社会で環境リーダーとなるポテンシャルを有する

<短所>

- ・大学を卒業と共に活動を終えるなど、継続性の維持が困難
- ・活動基盤が脆弱(事務所維持、スタッフ交通費の捻出)

4

エコ・リーグ事業内容

ネットワークサポート

活動する300団体、3000人を繋げる。

ギャザリング

- ・活動する青年・団体のノウハウ・意見交換イベント
- ・全国各地で開催
- ・年に約10の新プロジェクト開始



大学生環境活動コンテスト

- ・大学生が日頃の環境活動を発表し、**社会人による審査団が評価、アドバイス。**



キャリアサポート

職業情報の提供と、環境マインドを持つ社会人を増やす

環境就職進路相談会

- ・100人のボランティアカウンセラー
- ・全国4箇所で開催
- ・様々な分野をカバー(コンサル、エネルギー、マスコミ、公務員、NPO等)
- ・採用に直接結びつくものではなく、本音の意見が聞ける

環境系大学進路相談会

- ・環境に関心がある**高校生**への“生”の大学生の声を伝える
- ・授業だけでなく、サークル等の情報も提供
- ・環境就職のための情報も提供



5

エコ・リーグ事業内容

マネジメントサポート

学生の能力を最大に

スキルアップトレーニング

- ・学生ならではの課題を解決
- ・トレーニング内容は
ミーティングの方法、運営、広報など

その他個別、サークル
お悩み相談会の開催等



メディア

- ・学生向け環境情報ポータルサイト
- ・活動ノウハウ・事例集の出版等
(過去10冊程度)
- ・環境団体一覧作成



インターナショナルサポート

世界で活躍する、国際環境活動家育成

UNEP TUNZA北東アジア青年環境ネットワーク

- ・日・中・韓・モンゴルの青年ネットワークの
日本窓口を務める
- ・国際会議の運営



アジアの青年との連携

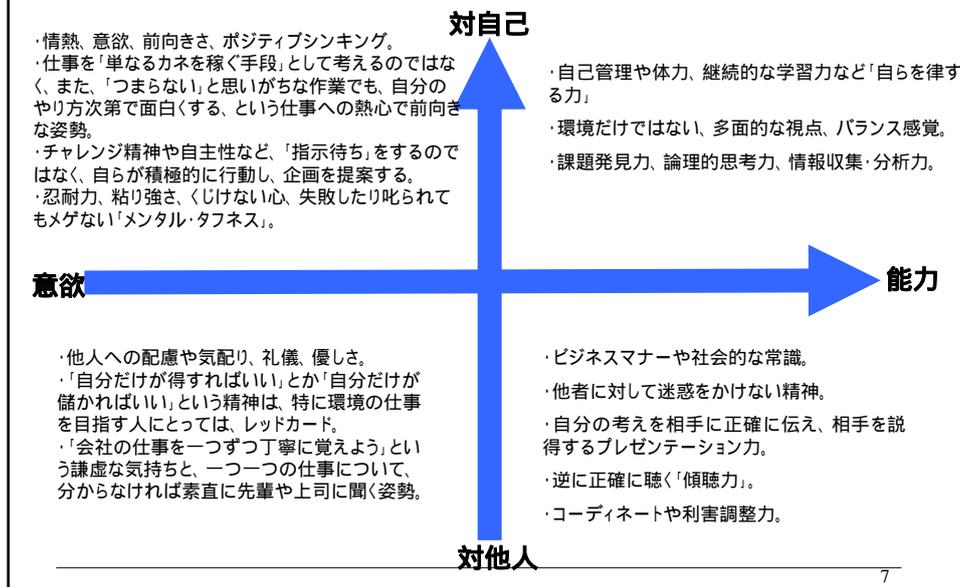
- ・東アジアへの活動支援・連携
- ・**国際環境リーダーの育成**
- ・国際Eco Leader トレーニングの開催
- ・国際会議への青年派遣
- ・東アジア青年環境フォーラムの開催



6

環境人材に求められる能力

「環境」就職・進路相談会in東京のカウンセラー50名に「即戦力とは何ですか」と聞いた結果



環境人材に求められる能力

全てのカテゴリに関係する能力は

実行力、実現力、行動力、好奇心

まずは積極的に全てのことを吸収しようという姿勢、どんな困難があってもゴールまでたどり着く「実現力」は、「何かの能力や心構えがあればいい」というより、**その人の志の高さ**が決め手となる。

別な言葉で言えば、**目的意識と覚悟**。一方で、間違えたと感じたら、素直に認め考えを修正する「柔軟性」も非常に重要である。

経済産業省「**社会人基礎力**」
組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力

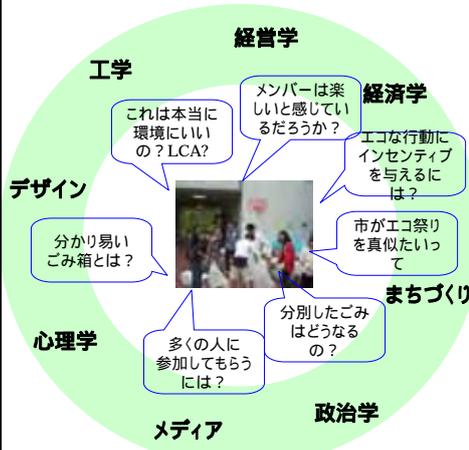
「前に踏み出す力(アクション)」
一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
「考え抜く力(シンキング)」
疑問を持ち、考え抜く力
「チームで働く力(チームワーク)」
多様な人と共に、目標に向けて協力する力



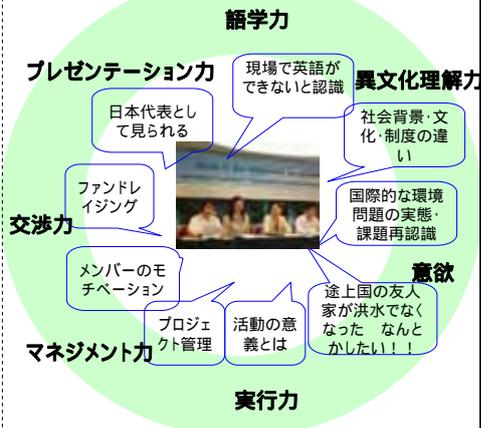
文部科学省：人間力向上
厚生労働省：YESプログラム

環境活動による人材育成への効果

エコ学園祭を行なった場合



国際会議運営をリーダーとして行なった場合



多岐に渡る分野での知識や、専門分野を学ぶ人との連携、コミュニケーションまで、非常に多くのものを体験しながら習得することができる

9

環境サークル・エコ・リーグの人材養成(環境教育)効果

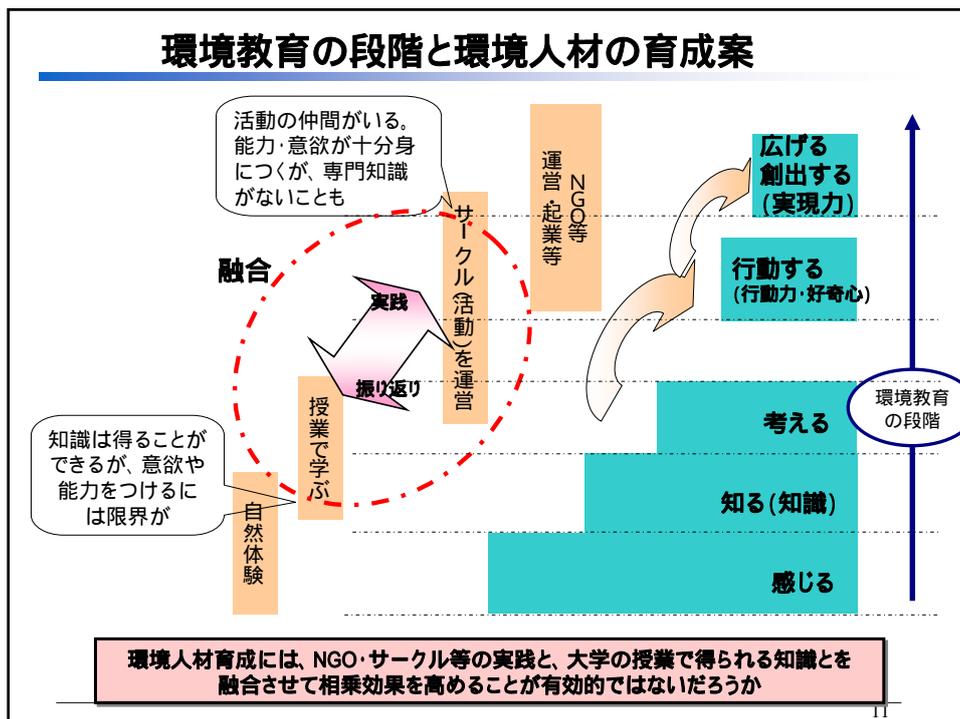
～ 学生を環境人材に育てる～

- ◆ イベント(プロジェクト)作りを一通り経験することによるプロジェクト・マネジメント力。
- ◆ 実行委員会(チーム)形式の活動による団体行動力。
- ◆ 自ら課題を見つけ、解決策を考える、課題発見・解決力。
- ◆ 企画実現へ向けたコミュニケーション力・交渉力
- ◆ リーダーシップ
- ◆ その他、当事者意識、意欲、主体性など。。

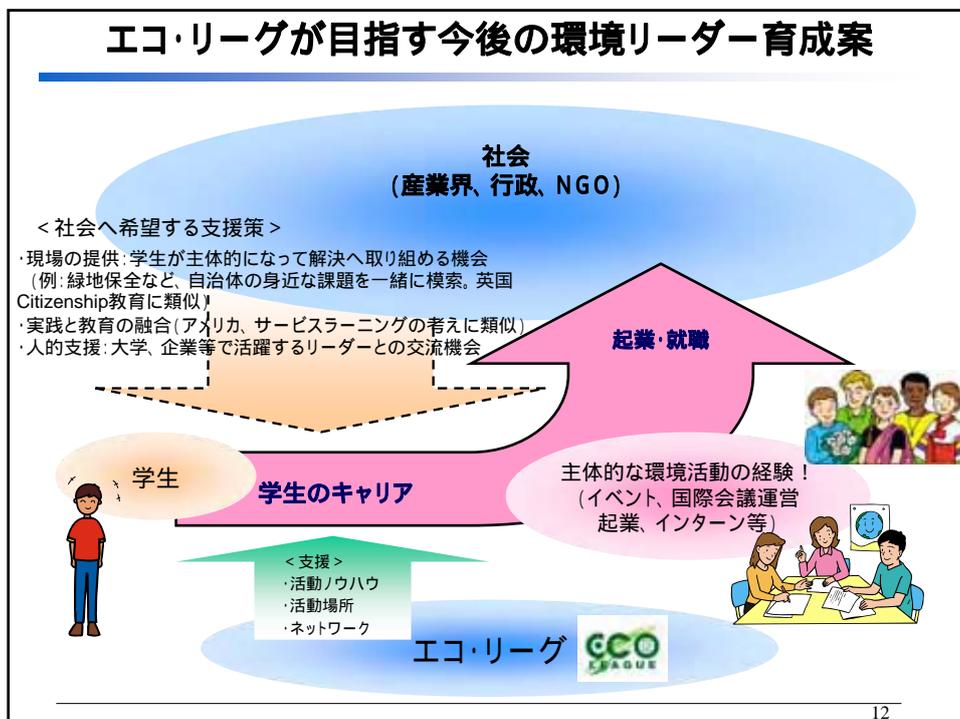
将来の日本を担う人材の育成に一助！！

10

環境教育の段階と環境人材の育成案



エコ・リーグが目指す今後の環境リーダー育成案



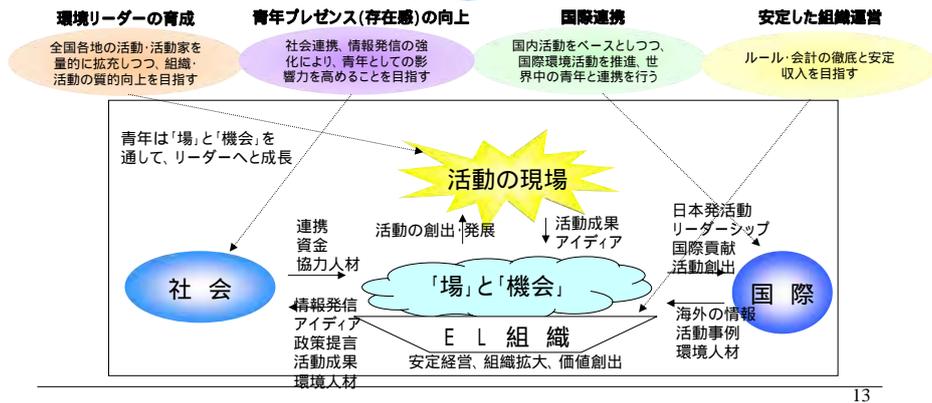
参考)エコ・リーグの中長期計画

2007年度策定、エコ・リーグの中・長期計画(抜粋)(3年間での達成目標)

- ・各県の青年リーダーとコンタクトが取れる: 全県
- ・事業参加学生の出身高校・大学数: 350高校・大学(全大学の約1/2)
- ・新しく開始した活動(事業)数: 10(昨年度開催イベント数の半分程度)
 - ・国際連携活動: 3団体
- ・新しく連携・共同事業を実施した企業・他団体数: 25件(昨年度イベント数)
- ・進路選択時に環境を考える青年が参加: 1000人(昨年度よりも増を目指す)

持続可能な社会の実現のため、青年の社会的責任を果たします。

理念達成のための4つの基本方針



13

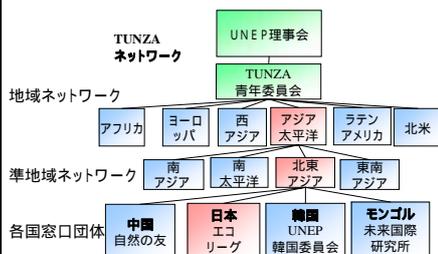
参考)UNEP-TUNZA 青年プロジェクト

TUNZA

<http://www.unep.org/Tunza/>

国連環境計画(UNEP)が2003年に、子どもと青年を対象とした戦略「TUNZA」を開始。
青年の活動をエンパワーメントし、また青年の意見をUNEPの政策に取り入れることを通じて持続可能な経済開発・発展を達成することを目的とする。

- ・青年の定義は15歳～24歳
- ・UNEP理事会に直接、青年の意見を伝える。
- ・2年に1回、約70カ国の青年環境リーダーの参加の下、TUNZA国際会議を開催
- ・TUNZA 6地域から各2名のユースアドバイザーが選ばれる。(’07-’09年、アジア太平洋地域からフィリピンと中国の青年が選出されている)



NEAYEN(北東アジア青年環境ネットワーク)

<http://www.neayen.org/>

TUNZAの地域ネットワーク。UNEP韓国委員会が事務局となり、2005年-北東アジア青年環境ネットワーク(North East Asian Youth Environmental Network: 以下NEAYEN)設立。日本・中国・モンゴル・韓国の4カ国が参加。**エコ・リーグが日本窓口団体**となる。NEAYEN会議を北東アジアで持ち回りで開催。**2007年は日本で会議が開催された。**

2007年第3回NEAYEN会議

日程: 2007年9月17-21日

開催場所: 東京・千葉

参加者: 青年60名(北東アジア4カ国より)

主催: TUNZA-NEAYEN事務局(運営事務局:エコ・リーグ)

共催: 千葉大学(オープンフォーラム部分)

協賛: パイエル株式会社

後援: UNEPアジア太平洋事務局、環境省、外務省

テーマ: 「気候変動と持続可能な消費」

プログラム:

2日目: オープンフォーラム(活動報告、パネルディスカッション等)

千葉大学環境サークル活動紹介・校内環境ツアー等

フィールドトリップ(イオン環境配慮店舗見学)

3日目: 基調講演(国連大学 安井副学長より)

各国の環境活動紹介

ディスカッション

文化交流

4日目: ディスカッション・

アクションプランの作成



14

参考) 国際的に活動をする上での問題意識:
東アジアの青年環境活動に対する日本の青年の役割



日本の青年が先導的な役割を果たす

相互理解も深まる

日本の青年環境活動現状

大学サークルを中心に200団体が存在
エコリーグが全国的に活動を支援
国際的な活動の関心の高まり

- ・2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議に参加
- ・2005年 エコリーグがNEAYENの日本窓口団体になる、各種国際会議の情報斡旋、参加支援を積極的に開始

東アジア各国の状況

<モンゴル・マレーシア・バングラディッシュ・ネパール・インドネシア・韓国等>

既存の環境NGOに参加する青年は存在するが**青年が主体となって行なう環境活動はまだ少ない、補助的な業務を行うことが多い。**
(日本の青年環境活動の紹介を行なうと、もっと詳しく教えて欲しい、英語の資料が欲しいとの声をよく聞く。)

<中国>

環境サークルの数は増加したが、支援する組織は存在しない。

国際的な情報交換・支援の事例

【海外 日本:キャンパスエコロジー活動】

現在環境サークルで主流となっているキャンパスエコロジー*活動は、1990年代にアメリカの青年環境団体SEACからその活動を知った影響が大きい。*大学を変えることから社会を変えるようという取り組み、学内でのリサイクル、省エネ、環境教育の促進等。

【日本 海外:キャンドルナイトキャンペーン】

日本の環境NGOが始めた、環境啓発キャンペーン。現在、韓国、オーストラリア等海外にも普及。アジア各国の青年から実施したいという声を多数聞く。

成果の例



“日本の学生がASEAN自然保護会議に貢献”
2007年1月7日 Brunei Direct誌 -

日本の青年は、東アジアの環境活動に対し先導的な役割を發揮し、同地域の環境問題解決に貢献できる。

参考) 国際活動をする上での問題意識
日本の環境活動をする青年が国際的な舞台上で活躍する上での課題

<p>現状</p> <p>国際舞台に出る能力不足 英語で発表・議論する能力不足*1 国際会議の経験不足</p> <p>不安定な支援基盤 支援する拠点の不在のため 数年毎の世代交代による散発的な活動、ノウハウの拡散 国際会議に参加する資金不足で戦略的な計画がない 国際的な活動の連携に関心が低い</p>	<p>機会の提供と教育を行なう 活動支援基盤の確立</p> <p>トレーニング 国際会議経験の提供</p> <p>情報・ノウハウの集約 主体的な活動の計画立案・運営 多国間での活動の意義を啓発</p>	<p>理想</p> <p>国際的な場での活躍 英語での意見・議論 国際会議</p> <p>安定した活動支援基盤の確立 情報・ノウハウの蓄積と 効率的な発信 戦略的な支援体制の確立 国際的な問題に積極的にアプローチ</p>
--	--	--

近年、青年が参加する環境関連の国際会議が増えたものの、参加した日本の青年の多くが国際会議への参加が初体験で、英語力の不足、国際会議の経験不足を実感している。これは、日本では青年の国際的な環境活動を支援する安定的な基盤がなく、個々の団体、個人に活動が行なわれているため、活動が散発的で、ノウハウが拡散しているからである。

そこで、国際チームの新事業ではエコリーグが支援基盤を確立させ、主体的に活動の計画から運営を実施することで、国際的な場においてもリーダーシップの取れる人材を多く育成していきたい。

国際的な活動を行なう際の課題 よくある事例:Kさん

国際的な活動に興味はあり、webで海外で行なわれる青年の環境国際会議を知り自費で参加。英語は苦手ではないが、政府からの援助で国際会議の経験豊富な他国の参加者との議論には圧倒される。現地では唯一の日本人参加者、日本代表という扱いで日本の環境活動のプレゼンテーションを発表(一人で作成)。日本の青年の環境活動が非常に好評で、「一緒にやろう!」と新しい活動の萌芽もあるが、1人に対応するには荷が重い。来年は就職活動、その後は就職となるので、継続的には関われないだろう。無責任に関わるよりは、断っておこうか・・・。

*1英語でコミュニケーションができる青年も多く存在するが、環境活動をしている学生には少ない。

日本の青年がリーダーシップを發揮するには、適切な人材育成・支援基盤が必要

参考) 東アジアの青年環境活動活性化のための日本の青年人材育成プロジェクト

2007年度開始。2007年は日本の青年の人材育成、日本の基盤整備に重点を置いて活動する。
2008年度、2009年度は東アジアの青年活動支援に重点を置いて活動する。

人材育成

目的: リーダーシップの発揮できる青年の育成
目標: 3年間で30人の国際派青年環境リーダー*を育成する。



基盤整備

目的: 日本国内で活動する青年層との情報交流
目標: 1000人以上の青年に向けた国際的な活動の報告

活動支援

目的: 国際的な環境活動を活性化させる。
目標: 多国間環境プロジェクトを10件企画・運営する。

*エコ・リーグの定義する国際派青年環境リーダー
・15～30歳までの青年
・多国間での環境活動において責任ある役割を担う人材

人材育成

国際派Eco Leader トレーニング

・国際会議で使える、環境英語トレーニング等
(NGO Japan for Sustainabilityに協力頂く)
・これまでに4回開催

国際会議への青年派遣

・COP13バリ会合青年によるサイドイベント、ASEAN学生フォーラム等に派遣予定

東アジア青年環境フォーラムの開催

・東アジア9カ国から20名弱の青年との環境国際会議開催
・UNEP TUNZA北東アジア青年環境ネットワーク会議の運営

国際活動支援 *来年度以降実施予定

海外からプロポーザルで
・エコ・リーグのような組織を作りたい、環境サークルを作りたい、
日本との協力プロジェクトで森林を守りたい等寄せられている

基盤強化

啓発ワークショップ

・国際的な環境問題・他国の青年活動の紹介等を全国各地で開催

情報提供

・国際派エコリーダーガイドブックを作成中
(国際会議・海外インターン等との情報、英語の勉強法等)
・環境・国際・青年をキーワードにしてメールリストを運営
・国際会議等の情報提供

調査

・アジア青年環境白書を作成中

海外との連絡窓口

・海外の青年に日本の環境活動を
英語で発信、情報提供



17

参考) 国内・海外の事例

海外の青年からのヒアリング等での情報であり、
不確な情報が多く含まれています。

大学の授業

【カナダ: 高校でボランティア体験が必修】
・生徒が自分でボランティア先を探し、体験を行なうことが
必修になっている。

・受け入れ可能な団体は、ボランティア証明書を発行する。

【アメリカ: インターンで単位取得】

・コロンビア、スタンフォード、MIT等 多数

【フランス】

・大学生がアフリカで基礎教育を教えるプログラムが普及している。

【カナダ York University International Study,

Environmental Study】

・授業の一環で国際会議に参加する。

・政治系の授業で、国際会議を主催する。毎年テーマになる
国を学生が決めてその国の政治や文化に関するスピーカー
を呼ぶ。企画もほぼ学生が主体。予算は学校から出る。

・他の学部とコラボレーションが多い。例えば環境アート展
覧会。

・宿題で「1ヶ月間、毎日環境的かつ倫理的なことを続ける」
ができることも。

【千葉大学: 再転車活用委員会の授業】

・放置自転車を活用するサークルが主体となって授業を運
営

・シラバス作りから、授業実施(活動、講師の選定、活動を
よりよくするためのワークショップ)、評価まで学生が行
なっている。

【京都大学: 地球環境学舎】

・必修科目で「インターンシップ研修」(3ヶ月以上とし、
5ヶ月程度を目安。)

【国際キリスト教大学: サービスラーニングセンター】

サービスラーニングは「学生が自発的な意思に基づいて、一定
の期間、無償で社会奉仕活動を体験し、知識として学んだこと
を体験に活かし、また体験から生きた知識を学ぶ教育プログラ
ム」です。サービス活動を単位として認定する仕組みは、アメ
リカの多くの教育機関で取り入れられています。

(ICUホームページより)

【早稲田大学: 平山郁夫記念ボランティアセンター】

実践を組み合わせた授業の提供。

大学と学生活動の連携・支援

【アメリカ: カリフォルニア大学】

・学生・青年の環境等の組織でインターンでき、単位にもなる。

【各国: 国際会議への支援】

・高校・大学・国単位で国際会議に参加する学生の公欠を認
める

【同志社大学: 育英奨学金】

学術文化活動、地域活動、スポーツ活動等で卓越した成果をあ
げ学力優秀な学生に対して、1人につき年額30万円の奨学金を給
付し、表彰式において大学長より同志社大学育英賞を授与する
もの。社会貢献部門があり、環境サークルや環境ゼミの活動の
成果で表彰されている。

【カナダ: サークル支援】

・サークル活動に対しては、かなりの資金援助が大学から出て
いることが多い。給料を支払われる場合も。

(日本では大学から資金援助を買っていないという非常に驚
かれる)

18

参考)世界の青年の環境活動と政府の支援

海外の青年からのヒアリング等での情報であり、不確な情報が多く含まれています。

世界の青年の環境活動状況

中国: 500以上の大学に環境サークルがある。環境教育やリサイクルが多い。最近では気候変動に取り組む団体も

カナダ: 青年の活動が非常に盛ん。環境省や地域のNGOとの連携も多い。

韓国: 最近多くの団体が出来始めている。啓発活動が多い。

アフリカ: 環境問題に特化している青年団体は少ないが、社会問題全般(環境、HIV、貧困等)の青年の社会参画は盛んに行なわれている。

アジア太平洋地域: 大学生のキャンパスでの活動はまだ少ない。農村や熱帯雨林等に現場を持つNGOや、環境教育のNGOでボランティアや運営を行なう、リーダー的な青年はいる。

アメリカ: 青年の活動が非常に盛ん。エネジーアクション/キャンパスクライメートチャレンジ等は500団体以上が連携し、大学の自然エネルギー導入や、環境政策に影響を与える。

政府・環境省等と青年活動の連携・支援

【オランダ: 青年との会合】

青年と大臣が定期的に会合を開く。

【アメリカ: 青年との会合】

州知事と青年が毎月意見交換ランチを開催している州もある。

【カナダ: Canadian Youth Environment Network】

運営は全て、青年で行われている。メンバーは、定期的(年4回程度)環境大臣とのミーティングを行い、青年の環境活動支援の要請を行う。

【フィリピン National Youth Commission】

・青年団体へのアワード「Ten Accomplished Youth Organization」やホームページでベストプラクティスを発表するなど優れた活動の表彰・支援を行なう。

・国際会議に出席する人を選抜・資金援助を行なうこともある。

【EU: EUユースの財政支援】

EUの青年に対する予算配分(青年の環境団体、青年の福祉団体等への予算)は、青年委員会のメンバーが決定する。EU職員も委員会の席にはいるが青年の育成のために発言は禁止。

【中国: 活動への財政支援】

・China Environmental Protection Foundationは10万円程度までの活動費を学生環境団体に助成

【アメリカ: 活動への財政支援】

・シカゴ市が学生の活動に賞と賞金を与える。



大臣

青年団体の施設で、年に定期打ち合わせを行う環境大臣(カナダ)

海外の政府の青年に対するスタンス

「金はさすが、口出さず」
「成長の時期なので、経験できるチャンスを多く与える」

19

参考)学生・青年が考える課題と対策

活動を行なう学生の考える課題

対策

授業の課題

・学ぶにはいいが、行動には結びつかない
・実践に役立たない

体験型授業の提供

・インターン(単位として)
・フィールドトリップ
・実体験の伴うもの等

エコリーグ事務局・環境サークルで活動する学生十数名にヒアリングした結果

環境サークルと連携・支援

・授業と活動のジョイント
・活動の評価・表彰
・大学の環境部とサークルのジョイント
・教授・NPO等の専門家からアドバイス

サークルの抱える課題

・広報・信頼性の確保・大学で肩身が狭い(宗教・反政府活動と間違われることも)
・活動で得た能力の評価と検証
・資金(交通費程度でも)不足
・部室・ミーティングスペース不足
・活動と学習の両立が難しい

大学の評価

・大学の環境対策評価コンテスト
・大学の環境授業評価

サークルのサポート

・他サークルとのネットワークの強化
・地域中間支援組織との連携

国際的に活動をする際の課題

・国際会議で使える語学能力不足
・環境に関心のある人と、国際理解等に関心のある人との分離
・資金不足
・国際会議に行く際の大学側の理解不足

国際人材づくり

・実践で使える英語の事業
・国際会議に授業として参加

就職の課題

・環境の職が少ない(環境人材の無駄)
・求められる専門経験を得る場が少ない(所得保障がない)
・NGOの給与が低い

職の創出・専門経験の提供

・職の創出
・JICAのような、経験を積みながら一定の給与と保障がされる仕組み
・学生の知識・能力を示すことのできる資格

20